



自ら掴む経営エッセンス！

(記事：いどばた稲毛) 渡部成夫 過去記事も読めます⇒<http://idoina.com>

11/27(火)

テーマ：『組織はリーダー次第』

出席23社23名
(美浜20、他会2、非会員1)

講師：袖ヶ浦市倫理法人会 相談役
(株)三友鋼機 佐々木 大八 氏

「倫理と出会い、今ようやく純情(すなお)の重要性がわかってきた」



Daihachi Sasaki

「こんなに熱心に質問して、話を聞いてくれる単会はない」と、お褒めの言葉も。素敵なお笑顔！

佐々木大八氏は、昭和17年、7人兄弟の末っ子として、秋田県で生まれた。昭和40年、23歳で(株)三友鋼機(機械工具販売業)を創業し、途中失敗もたくさんあったが、現在は事業所数7、社員数120、「とても好況で、売上記録更新中です。すごく忙しい、ありがたい状況です」と話す。

また倫理については、経営幹部が皆MSに出席するほど、社風の中に倫理が浸透しているという。お客様の紹介で倫理を始めたが、朝から大きな声で元気よく挨拶するMSに驚き、袖ヶ浦市倫理法人会を、仲間と共に立ち上げた。

経営者は、次の3つを経験すると強くなる。
〔①資金繰りで苦しむ ②大病 ③社内の対立〕
佐々木氏は、②だけはまだ経験がないようだ。

ただ③「社内の対立」では、地獄のような労働争議があった。いわゆる「会社つぶし」組織に狙われて、社内は喧嘩ばかり、良い社員は辞め、伸びていた業績も一気に降下した。「自分は裸でいい。失うものは何もない」と覚悟して立ち向かったが、無事組合を解散させるまでには大変な苦労があったという。

しかし、佐々木氏は「あの労働争議も、自分に必要だから起こった」と振り返る。23歳で社長になり、傲慢で天狗になっていた。人の話を聞いても、本当に心に落としてはいなかった。そんな自分を倫理が救ってくれて、会社も社員も変わってくれて、今ようやく純情(すなお)の重要性がわかってきたという。

「組織はリーダー次第」4人の師匠から学んだこと

1. 京セラ 稲盛 和夫 氏

「業績はどう？」と稲盛氏に尋ねられて、「良いです」と答えた佐々木氏に、稲盛氏は「気をつけなさいよ」と注意した。とても意味深い忠告で、組織に必要な、ぶれない・しっかりとした芯や哲学を、稲盛氏から教わった。

2. イエローハット 鍵山 秀三郎 氏

鍵山氏は頂いた手紙には、全て返事を書くという。また創業当時は出張も2泊5日で、つまり2泊は車の中で寝て、頑張ってきた人だ。「人間こうじゃなきゃいけない。でも苦労が顔に出る人は本物じゃない」という鍵山氏から、謙虚さを学んだ。

3. 東日本ハウス 中村 功 氏

中村氏が開く経営者対象の塾で、ある時読書感想文の宿題が出た。提出日直前にやった者、提出できなかった者がいた中で、中村氏は「だから君達はその程度なんだ！なぜやらねばならぬ事をすぐやらないのか！」と真剣に叱ったそうだ。実際に、先延ばしせずすぐやれば簡単に解決する問題は多い。会社経営の厳しさを教わった。

4. 株式会社アイウィル 染谷 和己 氏

染谷氏は、「1頭のライオンに率いられた100頭の羊の群れは、1頭の羊に率いられた100頭のライオンの群れに勝る」という。染谷氏からは、いかに組織にとってリーダーが重要か、リーダーの在り方を教わった。

「組織はリーダー次第。また社員を甘やかすのは愛情ではない」と、佐々木氏はいう。社員は、深い愛情で厳しく接してこそ、成長する。また、人間は誇り(プライド)が一番大事だ。倫理の普及と同時に、日本の自虐史観を改め、日本人としての誇りを取り戻したいと話す。そして社員にも、しっかりとした人生観・会社観が必要だ。倫理の普及と人間としての誇りの回復、これが佐々木氏の芯にある。

次回 第856回MS！ 12/4(火)6時~7時+朝食会 ホテルニューオータニ幕張(043-297-7777)

テーマ：『経営者の三顔』

講師：普及事業部次席 和田 毅 氏

できるできるやればできる！
明るく楽しくなければ倫理じゃない！
・会員120社・MS30名以上・美浜を美しく